

## 扶桑社版「新しい歴史教科書をつくる会」の歴史教科書の採択に抗議し、採択の撤回を要求する

本年8月27日、愛媛県今治市教育委員会は、2010年4月から公立中学校で使用する教科書として、「新しい歴史教科書をつくる会」（つくる会）編集の扶桑社版の歴史教科書及び公民教科書を、歴史教科書については4対1で、公民教科書については3対2で採択した。

「つくる会」の歴史教科書は、天皇を中心に日本の歴史を描き、日本の植民地支配や侵略戦争を正当化・美化し、日本国憲法の理念である基本的人権や恒久平和、国民主権を敵視し、軍事力を重視し、かつ、現実の問題に立ち向かわない無批判で受動的な人間を生み出そうとするものである。一言で言えば、「戦争をする国」を担う国民を育成しようとするものである。

扶桑社版「つくる会」公民教科書は、日本国憲法の理念である基本的人権や恒久平和、国民主権を敵視し、軍事力を重視し、かつ、現実の問題に立ち向かわない無批判で受動的な人間を生み出そうとするものである。

これらの教科書は、いずれも、「戦争をする国」を担う国民を育成しようとするものであり、きわめて問題の多い教科書である。

同教育委員会の教科書採択は、子どもと日本の現在と将来に重大な問題を引き起こし、国内はもちろん、アジア近隣諸国からも厳しい批判を受けることは確実である。

われわれ自由法曹団本部は、同教育委員会が「つくる会」扶桑社版歴史教科書を採択した暴挙に対し、怒りをもって抗議し、ただちにこの採択を撤回するとともにあらためて十分な調査研究に基づく採択をやり直すことを強く要求するものである。

2009年 9月 1日

自 由 法 曹 団  
団 長 松 井 繁 明